御階奪の白尾

坤

911.3
タ
坤

▲辰宿二十八宿の数〻なる宿〻を寓〻なる仮上〻〻

▲楊柳紀青柳下惠柳ヶ浦木の名列の名を季柳〻〻と柳去〻〻

▲柳と柳と柳〻〻付まこと〻〻人物柳〻

▲楊枝は表歯〻去〻ゆ〻又は白牛蒡

や

○数矛（ヤマブキ）〻まこと俗を柳柳〻山吹の清山〻〻白木の内又今〻〻山の字吹の字〻〻〻蕊菜の数矛（ムラサキ）付くもの〻〻〻〻〻

○宿（ヤド）〻〻旅〻〻〻声〻唱て〻〻皆柳去〻やどり面去〻〻〻

各寓矛のやどりハ七白去〻〻〻この字也

○寓（ヤドリ）〻〻月家白木の寓もこの内を九〻〻柳白〻〻

○屋（ヤ）男芦屋皆屋の数〻声〻呼く又〻〻仮上〻〻

○屋（ヤ）〻廐（ムマヤ）七白去国（ヒヤ）七白去宿寓又白去家三白去〻

○矢（ヤ）〻〻年の矢〻〻〻ひ〻〻て〻〻〻〻〻〻面去武具七白去〻〻〻

○柳〻〻去柳〻〻〻〻〻〻

▲柳の名は信濃の国下に村井也其形ちりゝゝ人所可代の時三条西内閣の也法名なるゆゑ柳しゝうの玉の名なれば可なり

▲山ゝうゝ名ちゝ備の国にも名所

▲山ゝ山ちゝ木と多けるゝゝ

▲仕人山賊も人備中を飛ス山のまゝ二ゝ也人の字二ゝ也

▲山根まゝびのゝ人備

○柳の名 兵柳のうけるみをとゝ付はいまゝみをとうゝ扨 西の河流をみをとゝで雑ゝ扨扨ゝ二ゝ也ゝ

○薮 ヤブ ゝゝ二ゝ也葉分ゝゝ茅木竹

○藪風 ヤブジラミ 声ゝ呼ゝ茅稚の名 薮ゝの内ゝ

○山 ゝゝ也ゝ声みゝゝも日ゝ山ゝ飛ス沢山ゝ也ゝ家士・法間 ゝ氏敬ホ山の字ゝ添ゝゝ二ゝ也ゝ加茂春日ハ山の字入て三ゝ也

○山猴 ヒル 人備ゝ山賊ゝ飛ス山の字 山猴ゝ也ゝ

○山猿 ガツ 人備ゝ山賊ゝ飛ス山の字 山猴ゝ也ゝ

○山ゝゝ ゝ山賊ゝ庚ゝ ゝびゝ扨

○山柴 シバ 刈ル 軍 ブ 干ス 焼ル 苅ゝハ ゝ人扨ゝ飛ス

○山色 ゝ社ゝ扨扨ゝ武紀紀 苅ゝ色ゝの色七ゝ也

○山猪 ニヽキ ゝ社ゝゝ苅ゝ面猪ゝ ゝの色ゝ七ゝ也

○山ノ猪 ハ ゝ峯 嶽 尾上皆 ゝ也ゝ

○山法 カゲ ゝ山のげゝ山ゝけゝゝ山ゝけゝ山ゝけゝ上ゝゝ山ゝけゝ山ゝけゝ

○山際 キハ 法の字也

○山里 サト ゝけゝゝゝゝ 茅の戸茅の戸ゝ人

▲山伏ゝ天武ゝ修験ゝ修験ゝ山賊ゝ飛ス山ゝ三ゝ也伏ゝ面ゝ ゝゝゝゝ山伏ゝ

▲山口ゝ也ゝ雑ゝ 扨入りゝ物山社ゝ ゝゝゝ

▲清水ハ大伴氏の人のゝゝゝゝゝゝゝゝゝ社ゝ ゝゝゝゝゝゝゝゝ

▲社ゝゝ後打 扨ゝゝゝゝゝゝゝ

▲門社 ゝゝ

▲八郎 ヤロウ ゝゝゝゝゝ飛ス

○山の清 シタヾリ 浮扨ゝ飛ス

○山の雫 シヅク ゝゝ用ゝ

○山科・山科の玉 山賊ゝ飛ス

○山雀 山賊ゝ飛ス

○山猿 人備ゝ飛ス

○山城のゝゝ ゝ所ゝ武紀紀代行ゝゝ後ゝ羽ゝゝゝゝ ゝゝ面紀ゝ ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

▲うくうひや又ハうの字上ニあるうくハてトモホトモしるうヒ

○焼 ヤク 二百五十 物去 焼野・山・畑・原・多ホやく 百去

○や字 物合を持てうひや 二百去 余ハ准ズ

増

○梁 ヤナ 百去 ムかしハやなトモ去 のぢ梁 去

○ぐぢ梁 くぢを梁 ぢを梁 秋 魚を五ル 異 去

○徒 ヤリ 百アり 振 百ヤ 百ヤ 百ホ

今百武 異 付 百 百

○寡 ヤモノ 百人 偏 やもめ 寡ハ 又百人〳〵

○疲 ヤセル 百 去 百 百 ホ 畜 弱 ヒ

今百

○病 ヤマヒ 百 声 百

○休 ヤスム 三百やすム 休ヒ

やすらふ 七百去

○和 ヤワラグ 百 ムかしハやわらグト 又百

○書 ヤシナフ 百

○役 ヤク 百

○尼 百

○寧 ヤスシ 百

○破 ヤブル 百

○艶 ヤサシキ 三百

○祇 ヤガテ 七百去

○安 ヤスシ 八百

○粥 ヤハラ 百

○雇 ヤトフ 百

○心 ヤム 三百去

○老 ヤル 三百去

▲やさ〳〵ハ物字トシテ字上ニ合テ三百

○柳 ヤウ 三百去 さ ぬ ヒ たり 〳〵 ヒ 雇

○良 ヤ、 百

○罵 ヤカシ 百

○病人の物ヒ ふ 言 タホ

物ヒ〳〵 病人非ス

○やらず ヤラズト

ハ百

○やら ヤラ 七百去 ハ百

百ハ 百ハ 三百去

○やハ 二百去 ハ百

百ハ 〳〵

○やよ 百

ま

○松 マツ 百去 人 物ト ヒ ケ下ム

ま ヒ 物ヒ 百 二百去 〳〵

○ま風 マカゼ 百 ま風 百 偏 百 偏 ヒ

二百 〳〵

○ま風の素 マカゼ ま素 ま 波物ヒ 二百

去

○ま風の面 マカゼ 面ニ 七百去

波物ヒ 二百去

○松の声 百 松のひびき 百

風体ヒ 二百去

○松の緑 ミドリ 雑ヒ ミドリ 〳〵 百

去

▲松山・末の松山は
そを示松の業歌あれば
松に入る名なれ〜〜〜〜

○松の紀　初春に百年に二度咲と

○松の門　居所なれば〜〜名に
ふさわしく植物に

○雲恒　名ものに居所に植物に

○雲うと　或は雲英霧俗に雲
う物に

○松の姥　そびさ物に
二名なれ

○松の木末　居所なれば名にふさわしく
植ものなれ〜〜

○門雲　初春の門雲のこと
植物に居所に二名なれ〜〜

○松脂　う物のうれ〜〜

○松嶮　初春に う物に二名なれ

○松子松葉　皆う物に
秋に

○松子　皆う物に
秋に

○絞の雲竹　強にあるべ雲の類　皆う物にあること

○雲傷　山類に名なれば植物非
松に三名なれ〜〜

○松秀松浦松宝　名ホ植物非
松に三名なれ

○松山末の松山　う物非
松に入る名なれ〜〜

○人名の松　植物のごと
松に二名なれ

▲松山・末の松山は
そを示松の業歌あれば
松に入る名なれ〜〜〜〜

○外松の一作とのこれ
う人物にあるこれは二名
なれと知れ〜〜

△松山は侯伯の名所

▲末松山は陸奥の名所

▲松浦は侯伯の名所
松浦は筑紫の名

▲松風の業う人物非

▲海紀の海紀　名なれ
山類に
奥州の名所に

▲雪龍の海紀
海紀の海紀は垣に
七名なれ〜〜

▲こがのはらは本の名
なれ松者とはこれの
の松ことなり

▲正木本の字三名
なれ本の字なれ人
物は又はなれ〜〜

○雲雅松　植物に非
雲に二名なれ

○雲茸　秋にう物に
雲に三名なれ

○松虫　秋に雲に三名なれ

○松むし　春に
松に三名なれ

○雲香

○蘿　名所に雪の海紀蘿の海又ホ蘿の
公内に二名なれ上三名あれ〜〜海紀に垣は面なれ

○松　又名なれ夜名に但松香のこがのはらと称しは夜名は
あるべしなれも松名なれ。さ松は松ホ行れも強に

○待　八名に侯伯に三名あれ〜〜但侯の字に
侯伯の名の名は剣に入れ〜〜〜〜

○殊　名植物に殊の字に
二名なれ七名なれ

○樵　名ホ本の字に強に本の字に
本に三名なれ

○正木　名本の字二名なれ海紀に名ホ二名なれ
支植に秋に まさきなれのうれ〜〜正字は異あり

○忘　名所に表に
ア二名なれ〜〜

○表菰　名ホ植物の海紀
表の菰面なれ

▲柾ノ木ト
まさきのかつらハまと
ハ故へ〜〜〜
女院西〜光れとと
共て孫ちゃんと

▲九條後白河院御所

○肩 ヲ山肩鑿の肩抑の肩肩ぬりの肩を木の内にかりく又ヲ
仮上ニヲん。肩の名本儀ん多こ浮物ニ所

○膿 ヲ
ちゃと寢 ヲ皆
又 後白河

○弥 ニヲうそいかり二百去ん
去二百去去の字ヲ五ヲ五へ

○侍〜 ヲ
二百去とヲヲニハ
ヲみへ〜

○侍ふ〜 ヲふとヲヲヲ五撰ヲの
字ニ所後二百去ん

○鞠 ヲよまり。蹴鞠ノの内ニ
今ヲまりこ川又ヲ

増

○孫 ヲ声ニヲヲニ表ニ
面塩へ

○町 ヲ所ハ二百去声ニヲ
所ヲ町今ヲ

○客人 ヲ声ニ呼〜
又ヲみへ〜

○去仙 ヲヲん去ヲ
二百去ん

○学 ヲ声ヲ〜又ヲ
みへ〜

○丸 ヲヲん〜ヲんト ヲ面去へ〜

○辨 ヲまんト ヲ
生狐ニヲん

○外 ヲ声ニヲん
外形ヲ〜又ヲん

○至 ヲよ足のまヲ又ヲ伊ニの
ヲ五ニ所ヲ月のまヲ五ニ所

▲世ニ去ヲ〜ヲ〜ヲ
去ヲヲヲヲ加ヲ
ヲ菱ニ所ヲ
ヲヲ〜ヲの
ヲヲヲヲ〜ヲ
ヲヲヲヲ〜ヲ
ヲヲヲヲ〜ヲ

▲まぐれハ　速の字

○まぐれ　こゝろ　ゆそれハふ　掛　ふきハ二ゐ去へ〜

○糸　ハ　こゝろ　祇　こゝろ　佛　こゝろ　仏上　ゆく　声　又　こゝろ　面去

○茶　ハ　こゝろ　面　とゆく

○産　祇　こゝろ　人　こゝろ　在の字　とを　ゆく

○紡　こゝろ　ゆ　ふ　ゆ　ひ　ホ　又　こゝろ　ふ　へ〜

○猪　こゝろ　ぐ　ぐ　ゆ　る　二ゐ去

○交　こゝろ　ゆ〜　こゝろ　と　こゝろ

○逃　こゝろ　ゆ　ふ　と　こゝろ　まぐ　ふ　七ゐ去

○勝　こゝろ　ホ　こゝろ　ゆ　ぐ　ぐ　こゝろ

○猪　こゝろ　ま　ゆ　と　こゝろ

○卩　こゝろ　仏ゐ　ぐ　こゝろ　て　打　こ　ゆ

○呪　こゝろ　ゆ〜　ふ　と　こゝろ

○頁　こゝろ　ま　け　と　こゝろ　猪　頁　又　こゝろ

○先　ゆ　ゆ　こゝろ　れ　二ゐ去

○縄　こゝろ　ま　こ　ひ　と　こゝろ

○守　こゝろ　ゆ　こゝろ　と　こゝろ

○万　仏　ゆ　こ　ふ　ゆ　こ　ゆ　刀　こゝろ　て　面去

○又　二ゐ去

○猪　こゝろ

○儲　こゝろ　賀　こゝろ

○間　二ゐ去　ゆ　ぐ　ぐ　二ゐ去

○去　こゝろ　猪　二ゐ去

○毎　ゆ

○稀　ゆ

○侵　二ゐ去

○猪　こゝろ

○生　ゆ　二ゐ去

○任　ゆ

○弘　ゆ

○曲　ゆ

○未　ゆ

○拓　こゝろ

○回　二ゐ去

▲元夜分の物とゆ〜て　猪ひ〜くハ結こゝ後分　ゆ　ぐ　ぐ　こ

竹

○竹　こゝろ　さ　の　ふ　ま　と　ホ　二ゐ去　今　こ　日　こ　ゆ　こ　こ　日　と　こゝろ

今日　今　二ゐ去　日　二ゐ去　日　こゝろ　の　と　青　夜分　と　悲

○けさ　こゝろ　今　こゝろ　猪　れ　あ〜　た　七ゐ去　ゆ〜　こ　ん　れ　と　又　こゝろ

今年　今　二ゐ去　去　れ　七ゐ去　あ〜　た　拓　去

▲泄燒 火偏に燒式云 雜物二百云 ゆるんずるに雜物 云

▲燒の相 和歌の詞

▲燒くべき 云 行基も火偏 云 雜物おくり燒

▲獸の字に訓 云 獸ら 云

▲下知 へけせて 云 われよと 云 ふりてい ふりくくを

○燻 行の燒も云 たく火炭やく故ぞ 下一切の火偏に二百云 燒に紫いろくくを 彩に二百燒に雜物二百云

○烟 云 仏梅桐まみ云 の燒に雜物に云 火偏に云 眉目 明

○胴 思ふの ふろに物を物に云 雜物おくり燒

○無名胴に 一切燒の字云 物のふろにふろくを

○毛 云 人偏生 云 ふろくみに

○毛とる 云 法 の毛 ふる皆云

○獸 獸の字に二百云 生 云 に二百云

○けを 面とて みに

○けを 面 ホの行

○去けまつけ

○けしとる 毛ホのけの字二百云

○ふろ 七百云 ふろこに みに ふんに二百云

○下知の行 二百云

増

○傾城 ふろれも 遊女 物を燒に

○検挑 ふ 人 云 盲の検挑 云 白面物盲面燒

▲熊野文 物書に云

▲下の字 二百云 ふをふろくに 二百云

▲乳とケとともむ時 ハ ふに

▲ふ に 紀 ふろ 接燒 ふに

▲けらふくに ふふくとふに 甲斐の行に

▲熊野文 年に心月の ふをに 委

○懸想文 物書に云

○賀茂 人 云 に

○剱 ふ 水の級 ホの級に ふ ふ 云 刀ホに物燒に

○春屋 ふ 人偏に 飛に

○下戸上戸 ふ 完物に てみに

○下龍下人 人偏に

○糸乃 ふ 尺 云 に

○糸乃典 ふ 偏に

○糸乃 ふ 尺 云 に

○嗜好 ふ に 偏 に ふに 云

○糸子 ふ 糸子に 尺 云 に 糸子に 云 に

○玄関 ふ 云 に 関に二百云

○気炎 ふ 云 に ふに 二百 ふに 面云

○欣物 ふ 人 に ふに

○化粧 ふ 云 に 化粧に

○繻 ふ 用物云 結目に云 物の表目に云

○闕月（ケツゲツ）　てゝ平なるのるゝ
けらめんでぬかるいるゝ

○結搭（ケツトウス）　蓑のだめることゝ

○実（ゲニ）　こゝるたゝ

○勝（ケニ）　をゝてゝるむゝ　てゝ
ゆゝるゝいるゝ

○けうゝゝゝ　てゝ氣味ト云
ゆゝるゝ

○消（ケス）　消（ケス）　ゆゝ
ゆゝ

○蹴（ケル）　こゝ

○演（ケン）　てゝ

○剣（ケン）　てゝ

○玄（ケン）　てゝ

ふ

○古郷（フルサト）　ゐゝたゝてゝ名所ゝてゝ旅ゝてゝ
ゆゝるゝゝゝむゝこゝの内ゝ

○古（フル）　汁（ハ）　ゐゝたゝてゝ苔の里ゝゝ
名所ゝ古二ゝ里二ゝ云
ゆゝ

○名所の古（フル）　ゐゝ志ゝ雅波ゝ古ゝ本の古ゝ紀の紀ゝ
ゆゝ　ゆゝ折ゝ紀ゝゝゝゝ面ゝ名所二ゝ里ゝ二ゝ云ゝ

○旅の古（フル）　ゐゝ初ゝ家郷ゝゝゝゝ里ゝ名ゝ人ゝ名ゝ
ゝゝ初ゝ古ゝゝゝゝ

○古郷　行ゝの古ゝゝゝ同の紀
紀の紀ゝ面ゝ

○古郷　面ゝ名ゝ人ゝ名ゝ紀ゝ藤ゝ飛
旅の古ゝゝゝゝ

○古（フルキ）　ゐゝ古ゝ面ゝゝゝ二ゝ云
年ゝゝゝ二ゝ云ゝ

○ふるゝ（フルキ）　ゝゝ二ゝ云
古ゝゝゝゝ

○蓑（フギ）　ゝ春ゝ蓑ゝ民ゝ或ゝゝゝ人ゝ名ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ○物ゝゝゝゝ

○文（フミ）　ゝゝゝゝゝ文ゝゝゝ又ゝゝゝゝ
但ゝゝゝ一切ゝゝゝゝ二ゝゝゝ

○文学の文（フミ）　書籍ゝゝ書ゝゝゝゝゝ
紙・ゝゝ物ゝ面ゝゝ紙ゝ紙ゝゝゝ

○文玉章（フミタマヅサ）　状ゝ紙ゝ紙ゝ人ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ月ゝゝゝ○文ゝ文ゝ七ゝゝ

○筆（フデ）　ゝゝゝゝゝゝゝ筆ゝ
内ゝゝ告ゝゝ一ゝゝゝゝゝゝ

○雪吹　ゝゝ雪ゝ七ゝゝ吹ゝ二ゝゝ
風ゝ強ゝ二ゝ強ゝ字面ゝ

○紙の文（フミ）　ゝ春ゝ雪二ゝゝ吹ゝ
強ゝ二ゝ強ゝ字面ゝ

△丁の古ゝゝゝゝゝ同の紀
紀ゝ面ゝ

△ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ二ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

▲古ゝの在ゝ形ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

▲文ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

△文ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
物ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
文ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
文ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
余ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

△年号ゝ人名ゝ文
文ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

△文ゝ自ゝゝ蚊蜻ゝゝ云
文ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

▲ふぐれとハ雪降とき
略字なり
海の字にて

▲ふり物ノ落ト云
物ハ如落トハ
面白ニ成ル

▲船一切の荷物ニ打
ち姫

▲糸ニ紙付ケタル羽
捻ル人ハ車
ガ付ていろ〳〵と
おろし姫

▲隅田川の舟
浅川の舟
外ノ川舟競ニ非ス

▲冬の夜更
十月ノ名

○浮（フル）ふり物の浮ル物ハ〳〵
ガ多ク出タル浮ル物ハ上ハ八ツ

○吹（フク）二ツ吉ニ風二ツ吉ニ羽ツ
ふく二ツ吉ニ笛ふく

○船（フネ）ふるまい海ノ体ハ船ノ法ぐ

川舟 浅ノ舟ニ川舟ハ拵て船ノ
非ス 浅の川舟ハ拵て船ノ

○苫（マコモ）船（フネ）ふるまい船ノ法ニ非ス

○猪牙舟（チヨキフネ）

○大（オホ）船（フネ）

○船（フナ）ハ

○左（サ）船（フネ）

○船（フネ）ハ船ノ法ニ非ス。

○天の船（イカ）舟天の河舟ハ五ニ非ス

○冬（フユ）

○冬の月 物ハ〳〵ニ吉

○冬（フユ）の梅の蕾ト云フ物

○食（フスマ）

○食（フスマ）

○古き食 古き梅

○襖（フスマ）

○深（フカキ）

○吹（フク）ふく秋・年・夜ハ〳〵ニ吉

○笑（フクワウ）

○蕾（フクラ）

○風体 風ハ吹ハ

○風呂 風流ハ風ニ吉

○ふり ふり物ハ〳〵

○二重の帯 青

○ふりの日 おのゝの日ハ
縁あり〳〵ハ拵ハ

○冬士の雪 本ニ代ハ出ル

▲ふり物ニ二人とハ
物ハ〳〵又ハ〳〵
ハ二ツ吉

○笑（フレワケ）笑ハ生ハ
面ト姫

○生（フ）生ハ
ハ〳〵ハ

○振（フル）ハ
ふり数ニ吉

○ふり 三ツ吉ハ
非ス

○冬（フユ）ふり物ハ〳〵
ふり物ハ

○冬士（フジ）冬士ハ山ハ
非ス

▲ふたりと二人とハ
折ふしゝ又みえ
△二ツ也

○文（フミル）八ツ秋・年・夜ハ
みえ〜ゆゑ二ツ也

○禁（フモト）二ツ名所ニ
山ハ七ツ也

○菁（フジ）ハ草ニ死ヲ
こけ〜ハ
二ツ也

○風体 風ハ
二ツ也

○ふた 新
ふたみえ

○二ツの
○ふたの
縁あ〜ハ
○ふじの雪 ハ
ゆゑ

○紫（フレツケ）
ハ紫ハ
○生（フ）ハ
○振（フル）八ツ
ふた数二ツ也

○風呂 風（レツ）流ハ風ニ
○ふたり 三ふたりも人
○葉（フボカヘ）ハ秋
○富士（フジ）ハ
富士ハ山
ゆゑ

▲伏兎に伏七日去兎三日去

▲挙動と食衰の名、ゆゆしくする間、喪の礼に面去べし。喪に振舞ホ代数多し。去に准して始め考べし

増

○笹 ろ 皇帝麻笹米の内にろ 笹草葉ろ人ホ面去

○丈婦 人偏し高く丈婦と申す 女夫ともあり人ろと

○測 ろ名訓にろ液の測ろ 震旁ホの内にろ

○鮒 ろ名ろ ホ又ろ みへ

○鮒鉢 初鮒者し

○袋 ろ 去に ろ

○蒲團 ろ去し 夜ろ 者ハ 雑し

○歩 ろ人偏し人足扶ホ 將棊の弱の歩ろ ろみへ

○嚢 人偏生孔に ろ ろ

○卧 夜ろし人偏生孔ろ ろ

○曲 初ろ 圏ろホに ろ

○挙動 ろ人の去ろ手ひ ホ ろ

○答無 ろ ろ て ろ の ろ

○振舞 二ろ去

○歴 ろ ろ ろ 山坂と ろ 三ろ去

○鬼 二ろ木糸ホ ろ て ろ へ

○編の弱ろ ろ で ハ 面始ホ

○慈 ろ 仏 を ろ の に

○慈 ろ 長 の 慈 ろ

○鉢 ろ 仏 ろ

○鉢 ろ

○鉢 ろ

○服 ろ ろ ろ く

○裹 ろ て

○合 ろ

○震 ろ

○節 ろ

○踏 ろ

○塞 ろ

○福 ろ

○札 ろ

○蓋 ろ

○駝 ろ

○右 ろ

○脹 ろ

○防 ろ

○巾 ろ

▲木枯の変ハ 該別の名訓し

巳

○風 ろ 去 ろ 木枯の変ト ろ ろ 木に二ろ去枯の字二ろ去風三ろ去 樹 付ろ始ホ枯ホ右ホ ホ面始ホ 夜ろ 孔 月ろ 孔ホ二ろ去

○木 三ろ去 木ホ ろ ハ ろ 枯ものろ 秋ハ二ろ去 きお

○木の変の 衣 ろ人物ろ ろ 孔に ろ 洛物二ろ去

○木の変衣 ろ人物も 衣ろ ひ も 二ろ去

○木の下闇 夜ろ 人物 夜ろ 悲し

▲稍の春暮　秋なり　物なり

▲稍の秋　九月の異名なり　物に非ず

▲意の中に人偏なり　意の山　お羽の名なり

▲心の秋　こころ　又稍の字の心も

▲心の秋　こころ　又教なり　とりなり　のりなり

○本魅　石本に三なり　本に三なり　三なり　禍面に山表折なり

○本の英　日七なり

○稍　石に木に稍の秋石に物に三なり　本の字本の字も　三なり　枝分なり　○わとも稍三の内

○意の字　口に折なり　但生物の上又は意言なり　声に唱へなり　こひ　こひ　こひ　こひ　皆口の内　○意の石に三なり

○意の山　名前の中に山なり　長い山物に非ず

○意字　物に非ず　但意なり　物なり　お羽なり　物に三なり

○心　別書まり　人て三なり　試なり　三なり　意に三なり

○心の花　正花なり　春なり　物に三なり　稍の花は正花なり

○心の変　物なり　物に三なり　なり　なり　なり

○心の月　難なり　又春なり　夜分に非ず　月なり　なり　なり　稍の月なり

○心の園　夜分にも意にも非ず　長屋の名なり

○心の友　人偏にも心の友なり　時は人偏に非ず

○心の馬　猿　生物に非ず　心の移り　やすく弱なり

○心の葉　柳なり　非ず　心に葉に三なり　○は変の字なり

○九宝　石に折なり　九宝なり　○の内に石九なり　坂　九宝の天なり　又石なり　○九の字石に石なり　なり

○刻　石なり　石の葉石なり　石の上に刻花なり　刻花なり　林木の声なり　石の内なり　色言膝言なり　なり　なり

○言の葉の乃　和歌の中なり　言の葉なり　言なり　言なり　刻に面に和歌の中なり　なり　なり

○刻の花　正花に接なり　非ず　なり　林　接なり　非ず　なり　言葉　面なり

○言偽　石なり　なり　なり　なり

○氷　石なり　なり　なり　氷魚の内に石月の氷泪の氷なり　石雪の内に石の上に折なり　べし　べし　ひろひろと面にて石なり

○氷　ひろひろと氷宝氷の接なり　なり　なり　氷魚まは氷宝氷の　接面なり　変ひの字に出る

○氷解氷　氷稀の歌　難なり　なり　なり　なり　なり　なり　氷の接なり

○氷のひま　氷解る　氷流る　氷春なり　落氷　氷なり　氷なり　氷なり　氷の接なり

▲月の氷泪の氷　名前　義氷の氷　氷魚氷の氷　のなり

▲落氷とも　氷の　氷なり　氷なり　難なり

▲衣文 ロ月 秋日 十月 秋日 名の字二百去

△衣揚 おの字 二百去 衣揚出く後 ゆ あるべくうと

△ロ字 おとはちろ うりのもく

▲苦衣 名のちろをのもく

▲越路 山路ゆ那く

▲子拐 人偏 意く

▲仗敬 うふとい 仗るの糸のうちひ ものく

△仗敬 ゆへ 国白 敬下 のもく

○衣 又百去 衣揚 ハ二百去 衣川 衣ひの表ハ衣 二百去

○苦 ろ 雑 ハ 花ハ 多く うへ物 ろ ゆ 苦 今 ろ

○苦芭 う 物 ハ 居 訓 ハ 那 ゆ ト

あれハ 衣 多く

○苦の居 苦の 那 う 物 居 訓 く

○苦衣 苦の 枝 拙 物 ハ 那 く 本 陸 く

又 苦 ハ あ く と

○狗 篭 ろ 居 ハ と ど れ 拙 去

狗 字 二百去 狗 モ ホ モ 篭

○越路 ろ 多 訓 越 の 字 二百去 あ つ ま 越 ゆ ち ゆ 越 の 海 ハ

多 糸 二百 路 ハ く。 百 の ち ハ て 面 路 ハ く

○子 ろ 面 ろ へ ー 人 偏 く 親 ゆ ト 法 花 て ハ 恋 情 く 子 見 十 百 去 と の こ

ハ こ た ま ど 仗 の 子 ホ 皆 子 ろ の 内 く 見 く ハ 分 百 路 ハ

○子 こ 今 子 郎 子 百 子 ホ 皆 子 千 の 子

篭 子 ト ス の ろ ハ 二 百 去

○子 た ち と た ち た ち 孫 二 百 去

小 の 字 ち 篭

○仗敬 ハ 訓 く 仗 敬 く ふ と い ハ

ハ 訓 く あ く と

○去年 ろ 去 年 去 ル 年 ト ろ く

去 年 今 年 ま く

○今年 ろ 今 年 新 年 ホ く ろ

今 ハ 字 ち 篭 年 折 去

○歳 ろ こ く て ど ど く 二 百 路 ハ

ロ 月 ハ 然 く 折 ハ

○青 色 去 む つ く ろ ち 去 ハ 去

て く ふ 花 ホ 青 二 百 去 ち 篭

▲車 車 ー 二 百 去 ち の ふ の ち く

○車 二 百 去 く せ ゆ ど れ ち の ち と つ く ち の ど く ち ち く 車 ハ く

仗 車 去 の ち ハ 百 ち ち く 車 ハ く

○仗 二 百 去 く 折 ト ハ 百 ち ち

二 百 去 仗 百 り 面 ハ て ち 仗

○家 二 百 去 ち 仗 の 字

分 ハ く と

○小 二 百 去 ち 小 ハ 二 百 去 小 拙 く 去 く

小 意 指 拙 く 小 百 法 ル 拙 く

○こて 変 り 仗 二 百 去 ハ く

千 百 ハ 二 ち ち ハ く

○試 ろ 仗 見 ル と 二 百 去 く

志 意 皆 二 百 去 く く

○志 ろ

仗 二 百 去 く

○意 ろ 意 ち く

仗 二 百 去

○意 ろ 意 ち く

仗 二 百 去

増

○声 ハ 二 百 去 く 苦 百 苦 く 二 百 去 ち の 声 ト く く 獣 の 声 ト く く

面 去 生 拙 ち ち く い 二 百 去 く

○弱 ろ 仗 弱 七 百 去 く

む の 字 く 委 ル

○弱 年 ロ 月 八 月

あ ち ち く

▲弱年 弱 年 ホ

年 去 の 正 く 委

▲喋くハクチタクの訓く

▲こてふよ似ちハ蝶ちよ似ちと いふなり てふとちをなり 右ハ蝶ハ蝶ハ折ちと てこか

○弱近ハ分の弱ハ八月く

○鯉ハ つまざよト又ハく

○加蝶ハ春く秋のてふハ仮名ハ秋く春ハ春く 喋くトハ訓ハ喋ハあくと

○こてふよ似ちハ 本の字言の字二百去ハ面去へ 加蝶のこてふハ春と秋ハ二の内く

○琴ハ声ハ琴ハ琴糸ハ面去 三絃線モ面去く

○碁ハ碁の ハ面去へ 碁ハ桑双六面去く

○水葱ハ 反く 反ハいとども

○菓ハ秋く 飾ハ春く 花反く 九拼 数三百去

○昆布ハ 数ハ五 食数ハ五 のゝ飾ハ春く

○呉服ハ 九れハどハ 又ハ

○扈従ハ人 従く 児扈従 意く

○菁女ハ人 従く 育人 九 面去く

○暦ハ 年号 声ハ ハ 折百へ

○暦ハ 紙車 牛馬 折紙 折へ

○金ハ 声ハ 金 ハ 金 ハ 二の 折へ

○箒ハ 切ハ ハ 折へ

○粉ハ 米 或ハ 米 ハ 粉骨 ハ 声ハ

○箒ハ 字 ハ 言ハ 二百去

○澁ハ 去 又ハ

○越ハ

○鹿ハ

○紺ハ 面去 紺紙 流ト 又ハ

○金ハ 折去 折 折 訓ハ 折去 ハ 面去く

○鯰ハ 鯰 ハ

○乞ハ 乞 食人 従く

○腰ハ 従 ハ 腰 折ハ 又ハ

○毎ハ

○蒟ハ

○好ハ 声 又ハ

○教ハ

○猶ハ

○異ハ

▲仡の字 ゴの門と云ふ人〳〵

▲江の里 あるなり

▲えびぞろへ ぶどうの熟〳〵云ふなり

▲夷 東北海邊と云ふ 夷と夷狄と云ふなり

○瘤 ふこぶ云ふ

○弥 コトニ云ふ

○蕉 ユガヤ 蕉と云ふ

○細 コマカ云ふ

○懲 コリル云ふ

○閘 コハシ云ふ

○流 コキ云ふ

○拷 コトラヘ云ふ

○込 コム云ふ

○此 是、家 皆云ふなり 此と云ふ

○こ 云ふ

○仡 ゴの字 面なり 七なりこみと出る

○えんとれおろくてハ

12

○江 エ 云ふ所 云ふ上云ふ 名字ホ又云ふ人〳〵

○えびづる エビ 云ふ蒲萄の名 えびぞろへぶどうなり

○縁 エン えんと云ふ 云ふ縁の字ハえんと云ふなり

○夷 エビス 云ふ人偏と東夷小扶南蛮西戎の内は今云ふ仏南蛮ハ國の名なり 人偏は北と。云ふ人偏と夷と折云ふ

▲寺 堂塔坊室 分丈庫裏七なり云ふ

▲寺 寺号 居号院号 折なり人〳〵

▲寺 寺号 居号院号 名所おろ〳〵なり

▲平 微二なり云ふ 拗拗ろふおろ〳〵なり

増

○鰒 エビス 云ふ夷面云ふ 鞦絲折云ふ

○鰕 エビ 云ふえびえび海の内 今云ふ人〳〵

○援 エ 云ふ雅く奥ハ秋く 名字ホ今云ふ

○猴多 ユタ 人偏と猴

○枝 エダ 云ふ川の泗面云ふ〳〵

○擇 エラブ 云ふ声今云ふ折なり〳〵

○得 エ 八くと声とても八の内く 面云ふ

○えらくの月 ゆ月と いろく

て

○寺 テラ 只美く居所あくを只云ふ所のなる云ふ号みくも声と云ふ仏 云ふくなるものなを云ふの内く居所と云ふ云ふ

○て テ 云ふ面なへ〳〵 徒云ふ云ふ徒ハ云ふと上と下ダ云ふ仏云ふく 云ふくとくもむ付ハなみの内く。なと云ふくと云ふ云ふ 声と唱へてもみの内く蔵る 数帳のほうなホもみの内く

○て テ

○て洗 テウツ ミグ あるなと洗ハ洗折云ふ たくの面云ふ

▲下の句にて第五千句みくもにてなく
ホ第五句目の右受立
下の句にて第五不表
ゝゝに受ゝゝゝゝも
出と人あり玄指落
の第五ゝ
組義ゆゑ第五ゝ
▲折合の第五下の句
腰ゝゝ上の句第八
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
を以八紙ゝ紙ゝ一流
あり懸紙義ゝ
この間ゝゝも指
義の第ゝ紙組義の
引句ゝ紙ス

○てふ 云五所句五へ〜以二百玄

○てど第五 下の句に八千句も出て
ホ第五句目

○てホとは字 一切折合とゝふ下の句の猫のてホとは上の句に第五
上の第五下の句擬玄折合

○紙延永紙紙祥 ホ紙の字付ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ紙目紙ホ
ホ八三百玄〜百岩十玄ホ面姫ゝ

増

○天 訓玄第ゝ分玄
ゝて面玄ゝあゝ出

○玉垣 名所にあゝぐれども
歩紙用捨ホ〜

○天子帝王 人倫ゝ非ス

○天孫 孫ゝ非ス

○天人 人倫非ス

○天井 ゝ非ス

○天下 と出ゝ後天下折久て
ある〜

○天狗 ゝ生類ホ紙ホ
非ス魔折姫ゝ

○輦車 折ゝ七句紙ゝ第玄
ホ物付ゝゝゝ

○妻 ゝ人倫ゝ玄ゝ
妻女房妹面姫ゝ

○殿 冥祥反佛反出反ホ訓
又冥ゝ面玄ゝ と出ル

○紙子 ゝ紙杯ホ折姫ゝ

○照 月日の句にゝゝ玄ゝゝ

○祥 ゝ第五ゝ
タイ二ゝ紙上ゝ

○鉄炮 ゝ火ゝ二百玄
鉄折玄

○調布 ゝ絹ゝ非ス

○献 ゝ第ゝゝ
人倫ゝ非ス

市

○雨 ゝ百中百天ゝゝ
ゝ紙上ゝ折久ゝ

○さめ ゝ小ゝ春百村百ホ久ゝ
百ゝ村百ゝ

○百 ゝあゝ
あまゝ面ゝ

○百 ゝ例ゝゝゝ
紙上ゝ

○松風の百 ホ第の百ゝ
百の外ゝ

○百 百ホ百ゝ
ゝ物ゝ

○ふゝ海 ル紙ゝ物ゝ
ゝ

○百 ゝ百ゝ
ゝ

○百 ゝ第ホ雪
ホ第ゝ

○ゝ ゝ百ホ百ゝ
ゝ

ゝ出ゝゝ百陸流
の洲生八今ゝゝ
ゝゝ折合ゝ多
ての字ゝゝ
てホゝの字八生折
合ゝ

▲扇を示の一字八玄
ゝゝゝゝゝゝ
▲天子ゝ帝王ゝ
後みゝゝゝ
ゝゝゝ

▲紙タ付分ゝ紙紙式
ゝ玄
▲紙ふげハ 紙タゝ
▲紙ゝゝ紙 紙生ゝ
▲紙げハ 紙合ゝ
▲紙鉤ハ
天子の供御ゝゝ

▲秋清 掃除 社社大門に清めの事

▲秋の月夕月 月を

▲秋は日夕つく日面の月拾ふ人〜〜いと徒あるものなり 淋の字よんあり 面の月拾ふ社寺の時代を変ず 性質 るるを 全結 ちくいまりの五月夕月日去 月日 准

○秋 訓 あきこれ 夜分に非ず 昼に二百去 秋ちつけ 時分

○秋の月 ちなみ 但月 秋の仕 ちなみ 秋 月 秋の字入 今 以上 ちなみ

○秋月日 ツクヒ 秋くれ 月 月 二百去〜〜 夕 ひも 准ず〜〜

○秋空 サム 秋くれ 秋 けくれ 月 皆 ちなみ

○秋日山 時分 天象 可 空

○秋雲 タカガリ 春 秋 秋 雲

○あさぐも 接 ちなみ 秋 新 皆二百去

○霞 アヒタ ちなみ 結 ぐ〜〜 以上 ちなみ 秋 七百去

○曙 アス ちなみ 夜分 非 夕 二百去

○暁 アカツキ ちなみ 夜分 声 ちなみ 時分 秋 二百去 暁

○曙 アケボノ ちなみ 夜分 秋 時分 皆 二百去 夕 空 ちなみ 暁 面去〜〜

▲明れ 夜の明 ちなみ 国の字 去

▲秋ちつ 清 秋 季 月 ちなみ

○明 訓 あけ 二百去

○明方 アケカタ 二百去

○明 時分 夜分 秋 秋 二百去〜〜

○明 アカル 夜分 秋 二百去 明 夜分 明 夜分 明 夜分

▲秋の七種　口愛

秋去衣　古歌に非ずして愛

七夕打去

▲秋の素うり物　三月去

素に二月去

▲天盤掾船　紙船

説多し　船の月去

あり　あるべし

○妹風　万妹の風と万夫に唱へて

万仏上三万

○妹去衣　七夕の異

○妹の素　ものもの

本の字に二月去

○天　打に万宮あり　又声あり　万面去

万　万　万　

▲あるれくしぐ
四月十六日文殊菩薩
あるぜ。おちゐ
二ゐを

▲網代ハ魚を魚とれ具と
網代ハ秋く
ゑしハ本と掛ゐく魚を
魚とをれゐく

▲うゐゐハ鮎のまゑ

▲陝イ本ニハかひゐ
本ノゐ魚ゐ淡ホ
二ゐをトあり

○霧ゐあゐぜちゐゐゐあゐぜの松系ゐ鮮のあゐぜゐ仏上
ゐくあゐぜ蒼あゐぜ世の絡ホ仏ぜも折久てゐ久〜

○網代ゐをくゐ丑く網面始ム月代苗代の代折始ム絡二ゐを
生数二ゐを。網代裏折久ゐく今ゐゐ久〜

○網ゐゐ丑くさぐ魚袋ゐ網
ホ折を又ゐ久〜絡二ゐを

○網代の系ゐ所二ゐを〜

○鮎ゐ魚くゐ鮎汲鮎ゐくゐさび鮎落鮎秋く代内ゐ千鮎
うゐゐ雑くゐ仏上季久折久てゐ家く鮎の子も玉く

○扇ゐ魚く風代ゐ蝿ゐ扇子五明ホの内ゐ仏上ゐく
團折久ゐくゐ久〜。扇ゐ捨ルハ焼く

○蛭字を〜相合ゐ二ゐを
ゐも二ゐを〜

○蛭折久てゐゐ久〜
ゐ蛭ハ三ゐのゐ久〜

○蛭坂山路〜開もはゐ
合ゐを三ゐ相ゐ二ゐを〜

○相合ゐ蛭ゐ笠ホ皆三ゐを系の字〜
ゐゐくハほゐ二ゐを〜

○間ゐを紀ゐひま本のゐ二ゐを

○ゐトく。ゐのゐひトく七ゐを〜

▲あやめの和ト人の名
の時ハ葉もゐゐ色も
めゐゐ折久て玉民

△菖蒲ト走ゐゐ
折久〜ゐ久〜

▲イ本ニ淡路ゐゐハ
山路く淡路〜ゐトハ
ゐゐ久〜トあり

△淡路の和訓に佐ゐ

▲海士のゐぐ縄ハ
ふりをゐぐゐゐ

▲里の海士河彼の海ゐ
ゐ雑トハ百鮎ゐ
ゐゐゐゐくゐゐ

▲ゐ月廿六日
村上天皇の忌日
ゐ日ハ彼ゐ彼ゐ
ゐの字ゐ彼ゐ
ゐ彼ゐ

○菖蒲ゐ玉くゐゐ形のあやめあやめゐゐあやめの松系の葉め
あやめの葉皆ゐゐ玉玉玉ゐ湯ハ日ホ玉玉ゐゐ玉のゐ〜

○沫ゐゐ沫雪ゐ馬の沫系の
泡ホゐゐ皆折久〜

○沫雪ゐ〜
消ルもゐ〜

○淡路ゐ山路ホ玉ゐゐ玉ゐ玉ゐあゐど山の字淡くもはゐ
山路家路ホの路三ゐを乃ゐゐゐと沫ゐ玉

○栗ゐ栗義玉栗穂
栗の秋く

○栗津ゐ系、表、里ゐ玉ゐ玉服く
栗津ト牛ハゐ玉く

○淡ハゐ淡ゐ山路〜。淡芽ハ生ハ石所ゐ二ゐ
淡芽ハ芽の芽の稲 粽ゐゐ芽ゐゐ芽ゐゐ〜ちゐ

○海士人働くゐ玉く海士ホ系ゐ秋淡海士山系ゐゐの月ゐゐゐ色
三ゐを玉。蜜のたぐ縄火ゐ焼ゐ玉。里の蜜人働く服ゐ系ゐ

○ゐ二ゐゐ二ゐゐゐ月唱ハ

○ゐ字を〜あゐど二ゐを〜
折ゐて面玉ゐゐ二ゐを

○ゐゐ字ゐ玉ゐゐ玉ゐ玉ゐ玉ゐ玉ゐ

○有馬〜の日玉ゐ
ゐ月廿六日ゐ〜

○あゐ海〜
ゐの字ゐゐゐゐと
培ハ二ゐ培ゐ〜

▲あらそ　清良ハ分壁ト云　ヲ字のうち　自流ヲ伝

▲ちの字の孫面ハふとハ　左訓の紅ゝ　ゝ

▲赤　ヲ紅ハ面ハ　面ハ

▲あらう　拍　ヲ　ヲ拍　ヲ　ヲ拍　ヲ　ヲ拍　ヲ

○あらう　ヲ　ヲ　ヲ

○汝（アラタメル）二ツ改む。七る云へ―

○雛（アヒル）てて紀こゝに七る云

○仰（アヲ）てて高こゝ

○畦（アビ）一ツ布のあぜて

○史（アビ）て白又て

○絶（アリ）二ツ高て

○蟻（アリ）一ツ蟻也―ト又ゑへ―

○芥（アクタ）蓋二る云芥川ゑへ―

○垢（アカ）て垢也垢又ゑへ―

○穴（アナ）二ツ穴こて穴りこて

○鬼（アマキ）二ツあやふむて

○誤（アヤマリ）二ツあやまちて

○庇（アワヒキ）一ツ高こて

○仰（アヲ）てあとのくて

○雅（アヒル）二ツ雅也二る云

○集（アツマル）二ツ

○雅（アヒル）七る云ゑこ二る云

○當（アタル）二る云中ゑて

○傘（アマカサ）二ツ

○与（アタフ）二ツ

○物（アヤカル）て高こて

○悔（アナトル）二ツ

○洗（アラフ）二ツ

○編（アム）二ツ

○洗（アラフ）二ツ

○嘆（アカフ）二ツ

○熱（アツ）二ツ

○釵（アツカル）

○甘（アマミ）二ツ

○淳（アツシ）二ツ

○案（アタヘル）二ツ

○駕（アハル）二ツ高こて

○ひつぐ（ヒツグ）二ツあぬて

○あるあるこゝ

○あ（ア）二ツあこれ

○あ（ア）二ツあこれ

○あるこゝ

○あるこゝ

○あるこゝ

▲揚戸 揚のあらの家居をいふなり

▲揚田 揚の名きの多くあるなり 保山さらに多くあり

▲揚子 揚子はいかに二にて けさうしなる女なれども花にて林に入 木にうゑられたるなり 多くは奇林に出 揚りあるなり

○笹の居 う(物に)非ず 居所

○さゝめ さゝめ 笹篠に三百去

○さゝ桧 う(物に)夜分に 篠よあらず

○さゝら 笹に二百去 去のもとに 付百姓 う(物に)非ず 天(義)

○揚 二百去 遠揚山さゝらの内にて揚の美秋にて 仏上 ほうあり

さゝらの美名 抄去てあり 仏を物 ほうあり

○揚に花付るの変るあり ゝと花にさゝらは七百去 あり花にさゝら

付ゝと花には受とゆゝく付 ゝ

○家揚 揚戸 ま(物)う 居所

○大揚 ま(物)う さゝらとは別 さゝらに似く花小キ

○揚人 祖物の名 ま(物)う 揚 白ゝら人偏 ゆゝ

○揚田 ま(物)う 田の字に 二百去

○揚子 人偏 雑 う 揚 ほ

○揚生 春

○揚門 名所 あり去 雑

○揚 名所 あり去 雑

○揚 う 物に非ず

▲揚森 さゝら 笹 森 ゝ

▲揚町 中納言 あり人 さゝらと 揚 あり 揚町中納言と

▲生ト浜ト季ゝ ゝ 花 ゝ 季は 揚 去 面去

▲里の浜 河浜の名 居所 人偏に非ず 去白ゝら人

○揚朝 揚員 揚うぐひす 花ホ ま(物)さゝら 月の内 ゝ

○揚盤 雑 う 物に非ず

○揚森 森 雑 う 物に非ず

○揚町 揚の名 名所 雑 う 物 二百去

○揚の美 国の美名所 非ず

○生 サムキ ゝ 季ゝ 揚 ゝ 揚 ゝ 揚

▲佐倉の字の寄の事称うふ極くうくふの頭はまく余は准らく

△神社のうらうくをうくふはあくと知へし

▲警とも〻ものとも〻ヤ〻後二つの外とみへし白色の外は格別〻

▲壹の光彩ホハ面の月を初め汐二つの内とみへし〻〻

▲壹の坂丹波の名所ミ

○佐倉ホホの名の字本　うへ物よ那へ去ものうくそそ字本よ
ううそれくの書と初く

○佐保姫　ヲ去く神ホを人倫も名所ともあること

○佐保姫の衣　ヲ頭ホを那へ

○小の字　三ヲ去へ小ト〻〻小ト〻も皆日沙別ううくハ対ヲ頭
さ夜さ山ホ小雲小雨の頭へおドうハ石若さとしうハ三ヲ去

○警　ヲ声ホ〻ヲ雑へ

○警鳥　初夏へ初へてみへし青

○酒　ヲ声ホヲ鹿砂へ竹葉焼酎清酒ホの夫名の内よ今ヲみへし　辟邪又ハ壹ホを三ヲの内よみへし

○壹　ヲ声ホヲ白とうくヲ頭へ面去へし

○壹の光　面の月を初め焼へ夜分へ天象ニ二ヲ去

○坂　二ヲ名所ヲ山沢ト声ヲ頭へ名字面頭ヲ去ヲ頭

○壹の坂　本膳山頭ヲ那へ名所の附ハ山頭へ本膳ヲ那へ

○みへ色の坂　山頭本膳ホヲ那へ

○細石　さ色萩さ栗ホ二ヲ去へし

▲同の光ルヘヲ頭へ月ヲ付へうくを物へ夜分の光ルニ国二ヲ去へし

▲げ色の月とに交ヲ

○咲　ヲ仮本ホヲうくみへし　正花の咲ハ一ヲの初よみへうくと開の字二ヲ去ヲの字付へうくし

○苗　ヲ去へう物へみヲ色ヲ那へ　ヲ桃ヲ百合ホ面去へ

○指　三ヲ去月日沙紅ヲ色ヲ
ヲうくも三ヲ去へ

○沢　二ヲ名所ヲ山沢ト声ヲ唱へても三ヲの内へ沢ヲとヲ去ハ三ヲ去へし　名字ホ面去へし

○連　ヲ流ヲ極ルさ流や大津
ヲふ統領ヲよみヲへ

○さふらふ　いの字ヲりホヲヲ

○咲　月ヲ去ヲ眠ヲ痛ヲトヲ色ホ夜分へ咲ヲ折へてみへ
辟ヲ撰ヲ色ヲ色ヲ色ホ夜分へ那へ物ヲれハ面去へ

○さの字　佐ヲ去ヲ名ヲさの
数二ヲ去ヲりハ面去

○さい　ヲふ河二ヲ去へ

○さいぞ　沙ホを交ホを二ヲ
去へし

○任他　みの字二ヲ去

○げ色　去秋色々の内ヲ家
ヲ去れ那れハみへ彩

○さび鉄　ヲあ皆秋へ

▲茅屋茅茨ともよむ
▲山のさゝ[illegible]
▲人のさゝ[illegible]

○さゝ人 ○茅 皮紙 生絹二百去
○茅茨 ○茅屋 ○茅茨 ○茅屋 ○茅茨 ○茅屋

▲養蠶ハ蚕ノ糸紙ノ後名ノ糸ノ名ノ

○錆サビ ニワ　○淵サビ ニワ　○刺サス ニワ　○級サバク ニワ

○綉サウ ヨワ　○探サグル ニワ　○裂サク ニワ　○捜サガス ニワ

○捧サグル ニワ　○抱サグル ニワ　○叫サケブ ニワ　○哭サゾ ハワ

○更サラ ニワ　○流石サスガ ヨワ　○ざし云ワ花ノ孔ノ ニワ

○さぐり ニワ　○さぐり ニワ　○さしば ヨワ

○さへ ニワ　○さやり ニワ

○さへ ニワ　○さやり ニワ

だかもは

さ

○蠶キリ ワ　蟋蟀ト ワ　吳名ノ ワ

○蠶ノ吳名ノ　○蠶ノ繭ノ内ノ

▲磋ウ切リ　白ノ磋ノ　ウツキメノ　トハモノ

▲ささのふの篠　クサノ篠　ノフ　ノ時ノ

▲狩場ノ野　ノ　声ノ高ク鳴ノ　トノ　ノ

○磋キスク ワ　磋ノ白ノ声ノ高ク鳴ノ　ノ　ノ　

▲菊の花　菊花香のこと紀物の
　　梅の花たくもはなこと
▲菊のきせ綿　秋
▲菊酒　秋
▲菊の宴　十月又九日
▲菊の異名　菊を用ゐること
　　好く金目貴ホト
　　ひとしくも仕なくい菊
　　のなと悲ス咲用ゆ物の
　　あらひあへ

○相　万指相トて万物相ゝ若相交相交相ホの姉妹ゝ
　　う人物ホを可ゆるこて万皆物ゆ〜相蚕相若う人物ニ百去
○狐　万夜ゆこ万ホトの世千トの狐ホ年の内ゝ今万ある人〜
　　ホ万狐川ハ文字ゆ書ホ万狐ゝ万〜ホ万ゝ
○君　大ホハ人倫ホ悲ス君ホ君ホ人倫ゝ代物ゝ意用ゆ
　　君あり仕ホも物ゝ〜万紀ある人〜
○菊　万秋ゝ多菊或ハ香の菊花又ホの菊ゝ〜ホの内ニ今万
　　人ホの菊ホの菊ゝ〜紀ホ又ホ面ホ
○菊の淵　秋ゝ水ゆ
○菊の名　秋ゝ水ゆ仙酒の名
　　ゆ菊ゆ悲ス
○菊の異名　菊花乙女花　ホ万ゝ菊　百夜菊　千代見ゆ
　　年ゆ菊　新見菊　ホ万ゝ菊
○菊枯ル　春ゝ枯ホ名ル
　　ホ万ゝ
○菊枯ラハ　ホ名
○菊枯ル　秋毎ゆ出ゝ〜ホ万ゝ
　　ホ万ゝ
○霧　秋ゝ涼物偉物
　　涼物ゝ偉物

▲霧の色　霧晴ルニ
　　熊の色　晴ルホ日面ニ
　　ゆ人ホ万ゝ
▲胸の霧　ホ名
▲霧ホ人　ホ名
　　きざ万ゝ人ホ万ホ
▲霧ホハ香あり　漢
　　ホ万ゝ人ホ香の
　　字ホ式ニホ〜
○霧の香や指ホ
　　ホ万ゝ
　　園の菊
　　大紀巳の白ホ
▲菊花ハ香ホ　京都ホ
　　正月の小袖ホ師ホ
　　ホ万ゝ
▲金ニ　金扇ホ
　　物ホ　袋ホ面ホ

○霧の雛　秋ゝ涼物偉物涼物仙ホ
　　涼紀ホハ物ゝ
○霧ホ　熊指ホ万ゝハ春ゝ蝶指ホ万ゝハ蝶ゝ万又ハちどり
　　ホ
○京更ホ　京二百ホ月ゆ月
　　月の異名ホ二百ホ
○衣　又百ホ絹ニ面ホ〜
　　衣ゆ衣ゆ又百ホ
○小　万ホ小ホ万ゝ万ゝ小ホ蚕ホ秋ゝ九月四日
　　小蚕ホ十月中酉日ゝ加茂社ホの蚕ゝ臣ホ御字ニ指ル
○清　男ハ清ゝ紀ホ二百ホ清ホ紀山ホ秋ゝ月川山ホ秋ゝ月見ゆ
　　月関ゆ月ホ清ゆ月ホ悲ス清ゆハ三百ホ〜
○ホ文字　ホ万ゝ万ゝハ万ゝ万紀の歌二百ホ清ホ清ホ紀
　　ホ紀ホハ不ホ。ホ万ゝ万ゝ万紀二百ホ和ホて

増

○金銀　ホ万ゝ紀ホ白ホ万ゝ万ゝ万ゝ万ゝ万ゝ万ゝ
　　金ニ銀ニ折ホ人ホ賦ホ万ゝ金ハ銀ニ面ホ
○伽羅　ホ悲ス万ホ万ゝ万ゝ
　　沉香折ホ万ゝ
○横笛　万ホ二百ホ

○糸 ワ洛・紀・九・生・木・扨去ヘ
大内百家ホ面去ヘ扨みを

○禁中 内裡百家中去并の原ホ
ほ扨去ヘ紀面去ヘ

○祈禱 ワ祈祇ト只家の分チ
白ヨロ人ヘ

○行 只家ヲ百地ヲ百ひ面去ヘ
紀ワ百地ホ中ホ紀歩ホ二百
去ヘ紀人紀者只家ヘ又ヨロ人ヘ

○階 ワ階ヲ面去ヘ

○経 ワ只家ヲ百人ヘ 春経内経
ホの只家ヲ百ヘ今ワ

○客 ワ人倫ヘ香ノ客ヲ
家百又ワヨロ人ヘ

○貴 ワ人山吹ヲ百ヘ
黄泉ヲ物ヘ紀百ヘ

○紙屋の紙 山紙ヘ紀百ヘ那ヘ
二百家去ヘ

○絢 ワ絢糸ワ衣ヲ面去衣三百
去衣ト衣ハ又百去ヘ

○肝 人畜ヘ二ワヘ
紀家又ヨロ人ヘ

○雅 ワ的の雅宮の雅
去ヘ又ヨロ人ヘ

○起靖 ワちヘワ楚文ワ
白ヨロ人ヘ

○吟 ワぶんぶんト又ワヨロ人ヘ

○弱 ワ結人ヘ

▲切糸弱 仲弱ヘ
弱金の弱ヘ
刈信濃 牧ヘ

○消 物人ヘていこるヘ内物の
ヘゆヘ又けヘホハ面去ヘ

○糸 ワ人ホ者ヲ百ヘ
糸ヘ家ヘ二百ヨロ人ヘ

○糸 ワ人いそぐ
面去ヘ

○乱 ヘワヘ
けヘ百去

○源 ヘワ糸ヘ又ワ

○巌 ヘワ

○海 ヘワ

○刈 ヘワ

○寃 ワ

○俄 ワ

○雅 ヘワ

○添 ハワ

○差 ハワ

○雲 ヘワ去

○伐 ワ

○切 ヘワ去

ゆ

○夕暮 ワ夕ヲ暮ト ヘワ夕湯 落雷ホヒヘワの内ヘ去ヘ仕物の色
夕暮 ヘ紀ホハ内ヘ ヘ百ヨロ人ヘ二ワの外ヘ夕暮ホヒ面去ヘ

○夕暮 ヘ紀の百ヘ 紀ホの字ヘ紀ヘ
去ヘ

○夕百暮 ワの字去の字紀ヘ
ヘヘ沢 柳ヘ

▲ゆうべちい正字白
夕あれ夕の字を
の字始ふ夕の字を
組箱も若のごとく
去へ〳〵

▲夕立ッ雷夕立ッ風が
ふり物二夕始ふ
〳〵

▲夕涼ひ辰巳
去庚トモ

▲夕闇ハ月ニ宵月
夕の字ハ八分の形

○夕トハ夕ハ月ニ宵月ニ夕ハ夕ハ夕ハ夕ハ夕ハ面ニ夕ハ夕ハ夕ハ夕ハ夕ハ

▲ゆく春と行末とは面白へ〜行末〜行末〜新しき色

▲交加（キヤウカ）行かうとする人を行末に二度ゆく春を惜しむも二度去へ〜惜しむも惜しむもとしいふもの

○行春（ユクハル）三月をゆく春・ゆきさうふゆく春・行末・暮二月をさす

○行歩（ユクエ）私・春・春のゆく歩

○向後（ユクエ）去・向後・ゆく春を行末・向後・暮二月をさす

○行末 行歩・向後・行末・行上・行方

○暮山 山・暮を悲・暮・暮山・暮山・暮山

とんとうあんとうあさ書の秘を傳ひ絶えみつも安房信濃
○右のごとく貞法寺家の中ふるさとの指と初せしへ人ありしとる
後世粉紛さるへ〳〵去るうち常あり前よりへるとくそれ中の一言をもせ
あるとくあるうるそれいはに祖義の指のこ方伝よ祈り伝えんを毎の手あ
行ものもの死ものあり去へ〳〵さい祖義の伝伝とおしとしいうと編まし
たるうゆてよ世をふ於とくをとを指と見まとくゆとこのうとはるるの之へ
初編のをよ流の伝伝とおはとく指〳〵祝指るゆ伝れいはの人の世まへ不伝
の秘指〳〵をふ行せるの秘をとあるうるるうるとく流く見を伝をたをいい
且知るとくいへとも撰者の滅法よをうを誘るうへ人るれとをいは悪指るとく又ふ
ふ伝る書ふを〳〵見知るるるものまをげるる正とを公の医法ふを正るいは良医
常あるとをふ見るるへ人るるとく此妙方被ふ公ふ正〳〵云ふ正せいは見智乃ふま
妙術をあるやとを見と常るとくいへとも事るを今を指ふ指と祈れも正るいは常
みへのふ指るよ鶴鮮朝鮮の教ふ不ふよ寄まるとあるるせいは見るるへ人を見と
信をとれとも一流を金をとしとく教るをるを消ふるる皆見見鮮の法〳〵
とるふ正るうふ動く見るるるとへともそふをを新よをるよを本の雑法を前
びと法ふへ人の指よへ〳〵常るるへのをを知るるとくいへよるふ秘寄よへあるへへと

▲名称名所を指すとは春日の神社若宮の神社名所城表佐と表佐とをの神とうふふ名所とあり〳〵

増

○湯 ユ 湯屋温泉物を湯女を湯女を
○視 ユヅ 視を待布下帯の教物を
○指 ユビ 指ゆびをとはいふ〳〵
○指切 指切を
○弊 ユウレイ 弊ふ弊ふ二百を
○枕 ユ 枕ふ枕ふ枕ふ枕ふ
○枕べ 枕べ〳〵雑ふ又ふ〳〵
○百合 ユリ 百合ふ百合ふ二百
○ゆ ユタカ ゆ ゆ後ゆ前ゆ
○ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ
○ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ
○兎 ユルス 兎ふ兎ふ
○ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ

▲さかしら人もあるらん〜ふ相まのるゝ
りてうろうろ行くとそこ行くとの神々の祭
のさくあるとき〜ぞ
春日の神位りく神
ホの位紀あるもや神
あるうの人〜ふ神のかゝ
くるうるく名詞に非
然るに紀たる人あるう
山ふるとに山歌こハ
あるさるとく〜と
紀の貞徳あ〜
是ある人

▲奇の徐 本の英
祥目天目ホ
位の目にも寵

▲目おの目 目に出ニ
ゑに寵 二字居
ゑ

○名所〜 二るゑ名所におゑ名義雲書事を二るゑ知離に寵
名所に花紙ゑ日二本と書紙折と浮くゑ〜
○糸の春 春の字日の字書
茂日のゑ文字ゑ三るゑ
○名不家 秋ゑ名家拾ゑ
○名人上ゑ 二るゑ〜
○和布 雅ゑ和布ゑ 紙和布を刈りハ夜ゑ和布刈の神ゑ中ゑ
夜ゑ大三十日に祭ゑ
○目 人の目ゑ折ゑ〜凡眺涙ホ二るゑ 眉睫眦瞼睫ホの目に対
ゑ文字皆七るゑ 眼・眥・牛涙の目面ゑ
○目 人のゑるの目人の目に七るゑ
面に完ゑ〜ゑの目いゑ見ゑ
○目ゑ家 拾物に非ゑ
位くゑ〜
○めく いろ〜ゑのゑくホ面を
ゑてゑるゑ〜
○めふゆり 二るゑ〜ゑるハ折
ゑくこゑゑ〜
○めや 二るゑ
ゑるハ面ゑ
○め いゑるゑゑるホ二るゑ
ゑるハ面ゑ

増

○女 彼の女ゑ女ゑ女ホの内に ゑ非ゑ生涙の女 ゑ拾物の女 ゑ
ゑ〜ゑの字位ゑハ位ホゑも折ゑ 拾物生涙の女ゑゑて面ゑ

▲緑ゑ ゑく
目ゑ 秋ゑ

▲御いゑの天ゑ〜ゑ、
中奥の連 姫ハ位
ゑ〜ゑも〜ハ
ゑ〜ゑ 在ゑ裁ホ
姫ゑ人ゑ〜ゑ
▲家ゑ山・在ゑ・ゑ 祭
二ゑゑ〜 位ゑ
ゑ〜ゑく付ゑ
▲三日月のゑ〜ゑ
月ゑの位ゑ

○婦夫 ゑ人偏ゑゑ夫ゑても
二ゑハゑ〜 女に面ゑ
○姪 人偏ゑ物折ゑ
女に面ゑ
○姻 ゑ人偏ゑ
れ乳の人折ゑ〜
○呂 ゑ〜ゑ〜ゑ思ホ面ゑ
内人ゑ
○面 ゑ赤面又ゑ紙の面又ホ家の
門徒一面ホに今ゑ
○姥 二ゑ
○銘 二ゑ
○飯 ゑ
○孫 二ゑ
○恵 ゑ
○廻 ゑ

み

○御 二ゑ在所非ス在ゑ裁ホも
姫ハ〜ゑ
○湊 二ゑ在所ゑ ゑ玉秋の湊に
三ゑの内ゑ分ゑく不若
○家 二ゑ在所 二ゑ位上二ゑ 中ゑ〜ゑも三ゑの外にゑ〜ゑ〜ゑたゑ孫
甲斐ゑ根富士の根ホ面ゑ人ゑの歩ゑを面ゑ〜
○三日月 ゑ秋ゑ他の季ゑ〜ゑ
○霙 海物三ゑゑ〜ゑゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ
夜ゑ非ス入ル夜ゑ

一仲秋今ハ九月ノ入ト云ヘレハ除ケル
三日月ニ月ヲ付テ
ケル〜〜〜

▲ひんせうやふの行
多多ある
▲見目
見も見にあるべ
▲ゆゆしく　三百五十二

○仏（三百五十二人偏）○仏（三百五十二）入（秋）こつ見に三百あるべ〜ひゆゆ
うんぞうさもさに二百五十二〜
○見（三百五十二目に二百五十二但いふく乃ち仕くれの数に目に
○ひんこ〜ゆ折にて見ゆ〜ゆて
○ひんこ〜ゆゆ見に二百五十二ホ二百五十二○こゆれぬ山ひんあれぬ浦ホ
ゆゆゆゆ〜ゆゆ○ゆゆ多ゆ旅ゆ〜
○乃（三百五十二野孤山孤ホの歩行の孤三百五十二〜義孤義孤ホハ二
百五十二ゆゆ乃ち孤ホ乃ち孤に二百五十二
○海雲（ミル）（三百五十二）ゆ〜ゆ〜ゆ〜

▲古その序のミたじ
一ゝ[illegible]とあるハ
年のヲ[illegible]非ス
▲ニ字を長ハ[illegible]
[illegible]ハ長ニ[illegible]
▲ミ[illegible]ハ[illegible]の反造
[illegible]人物[illegible]を
ニ様ロ様[illegible]

[illegible]人や家ヲ身ト生涯の間七日去ル[illegible]ハ[illegible]
員徳の去ル[illegible]ハ傘[illegible]ハ[illegible]人や[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
を家ヲ身のヲ文字ハ[illegible]ハ[illegible]
の文字又ハ家を拙ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

增

○二 訓ふたつ[illegible]
ニヲ[illegible]ハ[illegible]

○ニそぢ[illegible]ハ[illegible]字ハ二百[illegible]
[illegible]ハ[illegible]字ハ[illegible]

○三車 注華上の三世皆天蓋

○三澗 [illegible]ハ[illegible]ハ三徑[illegible]

○三角柏 [illegible]柏[illegible]又三[illegible]柏[illegible]
[illegible]ハ[illegible]柏[illegible]

○三徳 山[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

○三越路 越路ハ[illegible]ハ[illegible]

○三稱 [illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

○三井ヲ[illegible]ハ[illegible]
三係の[illegible]ハ[illegible]物[illegible]

○南 ニヲ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]八稱[illegible]三月[illegible]

○右 ニヲ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

○耳人 ニヲ生[illegible]ニヲ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

○溝 ヲ[illegible]
[illegible]物[illegible]

○添 ヲ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]字[illegible]ニヲ[illegible]

○箕 ヲ[illegible]ハ[illegible]

○猪籬 ヲ[illegible]ハ[illegible]

○澪漂 [illegible]

○壬癸 [illegible]ハ[illegible]

○沼 ヲ[illegible]

○猪 ヲ[illegible]

○実 本[illegible]ヲ[illegible]

○泉 山[illegible]

○緑 [illegible]

○猪 ヲ

○皆 ニヲ[illegible]

○渡 ヲ

○猪 ヲ

○孔 ヲ

○絶 ヲ

▲緑の林ニ盗人の[illegible]

▲塩　合塩なども有り
色よりて色々

▲もぐろとハ　もぐろとハ　かしらの
▲もぐろとうの字　或いハ
かくしろ　白髪皆秋に
しくロッ用ん

し

○時義　義ハ三百五十六文　時ハ物二百五十三百五十文
仕物　松風。木の実。川魚の時分皆々春夏　他に淡。の時分ハ春
○仙セ物　しゝみ　蛤の赤ハ春夏　海老ハ秋
○出不　味噌漬　名所町名の名　塩ハ塩魚も名　非ス皆面白
○出不　二百五十文　塩ハ　非ス　皆面白
○出不　一二不二　小ハ塩漬　非ス　皆面白
○出不　同　塩不　折ふの出不　面白
○出不　塩屋吾郎　非ス　塩ハ　人倫　塩やく人倫　非ス　名ハ名
○麻　ハ　麻の子　二百五十文
○麻　麻の子　麻の子　麻の子　麻の子　麻の子　麻の子
○麻の角　雑　袋角
○麻野菅　雑　麻の
その上　秋　雑

○色紙　麻の実　麻の子　麻の子
○絵麻麻　麻の子　面白
○出紙麻　秋　麻の子　麻の子
○干麻　麻　雑
○出　出ハ　出ハ　出ハ　出ハ　出ハ　出ハ
○出　出ハ　出ハ　出ハ　出ハ　出ハ　出ハ
○出車　出ハ　出ハ　出ハ　出ハ　出ハ　出ハ
○出　秋　出の字　面白
○志の上の服　名所　志の上　志の上　志の上　志の上　志の上
○下　下　下　下　下　下　下

▲出ハ　二百五十文
▲出ハ　出ハ　出ハ　出ハ

▲下級の夜分と下の字の夜分に非ず　語巴説

▲侍従の物のゆゑ　侍二の門と

▲家侍の国あり五家あり侍二の門と家侍の名とハ二の和と侍と面云へ

▲織物の織侍と語

▲白　声あり兵庫あり　あり　とあり　あり　あり　あり

○下級　衣類と云ふ　下の字　折形ふと

○志の弟　二の夜分と和あり　目字二の云篠面形

○知　二の云ふ　ちろり　ホ　ア　二の云ふ　知の字二の云ふ　ちろ　ちろ

○侍　兵二の名所二の和上三の　折云ふ　山類と　侍松侍小侍　山類と　川侍池の侍　山類に　侍と侍従　侍と面形

○侍二の紀侍家侍路侍えぞ侍　侍琉球の侍　家の八侍　芝侍　侍　山類に　山類に　非ず　侍二の門と

○志賀　和の名ふ五非ず　松を張ひ　ふ五を　ぬし　志和の名

○志賀　越前と　張ひ　ふ　張と非ず

○白　志ろ　ト　写ち　写ち　写声に　唱ひ　ひゆ　ふ　力ろ

○白　ひ　唱ふ　折去　唱ふ　ろれ　面云へ

○白と　数白和ろと　白系天　李天白ホ　三の云へ

○白尾の鶴　白尾の鶴

○下級　衣類と云ふ　下の字　折形ふと

○侍　云ふ　侍ろ

○時分　和り　ク　ハ　二の云ふ　和　ア　ろ　ハ　二の云ふ

○知　二の云ふ　ちろれ　ト　ア　二の云ふ　知の字二の云ふ　ちろ　ちろ

○侍　兵二の名所二の和上三の　折云ふ　山類と　侍松侍小侍　山類と　川侍池の侍　山類に　侍と侍従　侍と面形

○侍二の紀侍家侍路侍えぞ侍　侍琉球の侍　家の八侍　芝侍　侍　山類に　山類に　非ず　侍二の門と

○志賀　和の名ふ五非ず　松を張ひ　ふ五を　ぬし　志和の名

○志賀　越前と　張ひ　ふ　張と非ず

○白　志ろ　ト　写ち　写ち　写声に　唱ひ　ひゆ　ふ　力ろ

○白　ひ　唱ふ　折去　唱ふ　ろれ　面云へ

○白と　数白和ろと　白系天　李天白ホ　三の云ふ

○白尾の鶴　白尾の鶴

○白髮　二の本庶と　光と　七の云ふ

○白梅子　二の人偏と　云ふ　妙女　婦子と　折形ふ

○昔紫　二の云ふ　ひと　ト　二の云ふ　紫の名の昔紫ハ雅と

○枝折　二の人物と　和歌の　乃と　二の云ふ

○清み　二の雅と　清の字　付白姫ふ　名所の清み　三の云ふ　○清み張と　せ　ホ　云ふ　納涼ふ　付　○み張ふ　せ　ト　ホ　ハ雅と

○紫　三の紫の尾紫　紫の戸　桂物と　猛　石所と　芝二の

山紫　和と　紫ト紫　紫の中　桂物と　○紫と　芝と　猛

○宿　二の宿所　張宿　池田の宿人　日宿と　ホ　石所と　金雅と

宿老　本膳と　非と　宿坊人　偏和と　天芝と　宿室　宿世　天芝　非と　天芝　非と　天芝　非と　天芝

○宋　二の宋　清の名面云ふ

○雅　二の云ふも　紫と　紫と　と　と

○宋　本の宋　形の清　清物と　非と

○満　二の宋　清の名面云ふ

○雅　雅ハ秋と

○紫　二の云ふ　本ふのあ　ら　ひ　ふ　て　て　も　う　物と　二の云ふ　○　云ふ　ト　云ふ　紫

○紫り　二の云ふ　本ふのあ　ら　ひ　ふ　て　て　も　う　物と　二の云ふ　○　云ふ　ト　云ふ　紫

う　物と非と　ト　ト　云ふ　て　云ふ　て　ト　云ふ　の　ち　ろ　ハ　紫　の　字　行　も　も　石猛

○紫と　二の雅と　本ふ　の　ち　ぬ　ぬ　と　の　ふ　と　う　物　二の云ふ

ち　ぬ　ぬ　ト　ト　ち　ろ　ハ　う　物と非と

○入（シム）　こゝろ　かゝる　なこる

○将棋（シヤウギ）　一つ　ゑゝ　七ゐ　ゑ

○親（シンシギ）　一つ　ゑ　ゝ　ゝ　む　又ゐ

○孤（シナ）　こゝ　ゑ　こゝ　ゑ　こゝ

○雛（シハ）　こゝ

○耆（シヤ）　ゐ

○弑（シイ）　こゝ

○辭（シツカ）　こゝ

○続（シツヅメ）　こゝ

○調（シヒバル）　こゝ

○逗（シリヅク）　こゝ

○慕（シヤウ）　こゝ

○頻（シキリ）　こゝ

○死（シ）　本癌　ゑ　こゝ　こゝ　生（イキ）　生（ムル）　ゐ　ふ　こゝ　ゐ　ゑ

○柵（シガラミ）　こゝ　ゐ　ゑ　汐　こゝ

○篠（シノ）　こゝ　行・番・　ゑ　ぶ　ふ　こゝ　ゑ

○吞（シム）　こゝ　ゑ　ゝ　ゝ　こゝ　人　働　こゝ　ゑ　こゝ

○生（シヤウ）　こゝ　ゑ　こゝ　こゝ　笛　こゝ　ゑ　こゝ

○碧（シヤウ）　ゑ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ

○汁（シル）　合　ゑ　こゝ　本　ま　の　汁　ふ　こゝ　り　て　こゝ　ゑ　こゝ

○犬（シヤウ）　こゝ

○叩（シヤル）　こゝ

○潤（シヤウ）　こゝ

○凌（シヤウ）　こゝ

○順（シヤウ）　こゝ

○波（シヤウ）　こゝ

○碓（シヤウ）　こゝ

○新（シカル）　こゝ

▲弦　ゑ　こゝ　本　ゐ　こゝ　ゑ　ゑ　こゝ　ゑ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ

▲恵法須　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ

▲辭　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ

▲清府の水白　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ

▲間浮の水白　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ

○易常（ジヤウ）　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ

○調理（ジヤウ）　こゝ

○〜〜　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ

弦

○弦　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ

○恵法須　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ

○辭　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ

○清府の水白　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ

○海老（エビ）　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ

○夷（エビス）　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ

○板（エキ）　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ

○ふ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ

○弟（エム）　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ

増

○詠（エイ）　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ

◀ 鶴の子の鶴の子の鶴の子の

▲埋火　ウヅミビ　炭俵ホウタワラ　炭ヲ
▲燈の芯　トウシ　芯ヲ　燈ヲ
▲芦火　ヨシビ　芦ヲ　夜分ニ用
▲火燵　コタツ　炭ヲ　炭斗ニ用ル
▲火偏の白二百　ヒヘンノシロ
▲光の陰　ヒカリノカゲ　日月ヲ二字ツヽクハ二百ヲ云ヘリ　光ハ星陰ハ夜ヲ云ヘリ
又物ヲタヽル物ヲ集ヲ云ヘリ
▲紅の級　クレナヰノキウ　海ヲ云ヒ下級ノ関ヲ云ヒ級ヲ云ヒ
但下級ニ下級関ヲ云ヘリ

○久　ヒサシ　二ヲ久ヒヲ下ニ下ル上ニ
声ト訓　面ヲ
○久ヒサシ　久ヲ折ヲ書ヲ
○火　ヒ　訓ヲ相ヲ
云ヘリ　火ヲ
○燈　トウ　物ヲ火ヲ
○火　ヒ　物ヲ火ヲ
○新　ニヒ　火ヲ
○光　ヒカリ　日月ヲ
○級　シナ　ヲ
○人　ヒト　二ヲ人偏ニハ二百ヲ
○ひとへ　ヒトヘ　人偏ニ非ヲ君ト人ヲ二百ヲ

▲雛祭　ヒナマツリ　後ノ雛ノ祭ヲ
▲ひつち田　ヒツチダ　ヒツチ稲ニハ折ヲ
▲冷ハ物秋ノ冷ヲ　ヒヤハモノアキノヒヤヲ
▲冷酒　ヒヤザケ　冷汁　ヒヤシル　冷麦　ヒヤムギ
▲東　ヒガシ　あつま　面ヲ
▲ひぐらし山　ヒグラシヤマ　大和名
▲ひぐらし　ヒグラシ　ヒヲ折テ
▲彼岸　ヒガン　彼ハ年中ノ季ヲ云ヒ彼ノ岸ヲ云ヒ彼ノ岸ヲ渡ルヲ彼岸ト云ヒ

○雛　ヒナ　ヒヲ下ニ下ル
○鄙　ヒナ　ヒヲ田舎ニ面ヲ
○藻　ヒヤモ　ヒヲ
○ひとへ　ヒトヘ　ヒヲ
○冷　ヒヤ　ヒヲ
○ひやもち　ヒヤモチ　ヒヲ
○ひやもち　ヒヤモチ　ヒヲ
○ひやもち　ヒヤモチ

▲ひやりの日 弦射 六月三日より六日と 季々に季にあり

▲百姓 人偏に非

○[illegible]三る去 琴 弦 白拂 牛 彩 ふ ろくくい行 也 も 二る去〜

る。ひやりの日 又月 之

○枇杷 る花 ハ 去 之 夾 ハ 去 之

○琵琶 る 爰 弦 絲 竹 琴 琴 ホ 面 と 弦 ふ

○蓑 る 去 之 み 五 人 物 之 ひ〜 紋 ひ〜 地 ホ 雜 之 う 人 物 と 非 ス

○枕 る 雜 之 ひ〜 ま ま と 日 爰 ホ 去 之

○蓋 る 花 の 蓋 去 の 蓋 ホ の 円 之 る 千 付 日 中 面 去 付 分 二 る 去

○干 物 人 〜 二 る ひ と 又 二 る 物 去 之 る と 七 る 去 〜

○百 訓 去 傳 〜 て 人 物 去 之 訓 去 ろ ろ く い 面 去 之

○底 る 去 訓 之 汗 底 淡 底 ホ 又 る 物 二 る 去 〜

○髭 る 生 須 之 る ひ げ 髭 る

○付 る 去 ま 二 る 去 ひ ら 付 ば 又 ま 人 〜

○額 る 生 須 之 る 山 の 額 又 ま 人 〜

○羊 る 未 坤 ホ 物 人 て ま 人 〜

○羔豚 る 人 傳 に 非 ス 羔 二 る 是 面 去

○芝 生 須 之 る 絡 布 の 芝 之 る

▲花紅葉 雜 之 人 物 之

▲仙セ物の紅葉の 紅葉に面去て ま人〜

○蒜 る み ん ま く と る 韮 る 切 葱 る 韮 去 之 ら ぎ 去 之 ひ ら り ど 移 ぶ る 去 之

○郷音 る ひ ど 花 の 漸 又 ま 人 〜

○虞 る 之 虞 る 之 虞 ホ の 池 ホ 又 ま 人 〜

○椎 る 仙 椎 と 又 る

○茗 る ひ 〜 花 又 る

○膝 る 生 須 之 又 る

○滝 ハ る る 二 る 去

○傳 る ひ ど 〜 と る

○低 る ひ く い と る

○扣 る

○打 る

○窓 る

○指 る

○尤 る

○贅 る

○浸 る

○傳 る

○学 る

も

○茂 る 梅 橘 の 円 る る の 茂 る る 茂 ふ と る 仏 上 る 折 去 之 朱・丹・茂・紫・代 茂 二 る 去 之 去 の 去・他 の 茂 ホ の 去

○[illegible]　○文字[illegible]紙の[illegible]

○文字作り　[illegible]

○門　門[illegible]

○素　モトヨリ　[illegible]

○拙　モテユミ　[illegible]

○歌　モテアソビ　[illegible]

○以　モツテ　[illegible]

○笑　モガリ　[illegible]

○桃　モモ　[illegible]

○篠　モチ　[illegible]

○本綿　モメン　[illegible]

○蒙　モスリ　[illegible]

○股　モモ　[illegible]

○笆　モガリ　[illegible]

○物　モノ　[illegible]

○焼　モロル　[illegible]

○[illegible]　モヒ　[illegible]

○海雲　モツク　[illegible]

○[illegible]　モヒル　[illegible]

○[illegible]　[illegible]

○[illegible]　モヒトモ　[illegible]

○諸　モロ　[illegible]

○[illegible]　モヒトモ　[illegible]

○海　モル　[illegible]

○[illegible]　モヒ　[illegible]

○用　モチヒル　[illegible]

○者　モノ　[illegible]

○[illegible]　モヒハラ　[illegible]

○[illegible]　モヒラ　[illegible]

○守　モル　[illegible]

○[illegible]　モル　[illegible]

○悖　モドリ　[illegible]

○脆　モロシ　[illegible]

○揉　モミ　[illegible]

○蝮　セミ　[illegible]

▲関山　歌あり　るとよりて名へ〜

△関　布部に雅楽張雅　他関越ルハ張と

△関屋　関の戸ハ　布部に二百去と

△関守　人偏と　他関とモルトハ人偏　あると

▲激　足の小川　激に面去〜〜あ浅く　〜〜激と書ると　いと　ろろ　あると

▲仙洞　左文門裏ホと　分〜〜と仙人折　る〜〜

○関　ろ名部にろ表ろ表紙とも〜むろ関の門又ろ表に堅〜てろ物上　写と〜折去〜〜井堰又物と禦ルホ面去〜〜

○関と　関白殿といハ分〜〜ろ〜〜ろ〜と他表に喝ろ関ハ二百去〜〜　。気と問ろ。疾嘆ろ表ホ関と〜ろ〜〜と

○雪山　天竺のろ名熟と山称　難と他百ろ表ろ

○責　ろ二ホに不足通　逼ろ表ハ二百去

○せんいん　二百去〜仙〜せんろ〜せんのせんと〜ろ〜いろ行　二百去せんみと二百去〜

増

○激　写と名部の激も写の内にあ〜〜あ丑と舟子面去〜　物激あ去激の表七百去似を物の激面去〜

○仙人　ろ山称に人偏雅と山の字　二百去人の字三百去〜

○膳　ろ折紙足ホ折百〜　を膳門膳ホ面去〜〜

○洗濯　ろ物あ〜〜折去と〜ぐ　二百去

○芹　ろ表と丑と表ぐ折去〜

○芦　ろ芦振舞芦伝芦表芦表谷ホの内にそろ言伝の　芦ハ面去〜あ〜〜芦分〜〜ろ〜〜ろ〜と

▲せバをの　小魚のなり　鰭度鰭揉トアリ　日本記

○せこ　せぶトいふを門表と丈のると　表ろ物の熟辛不足

○鮭　ろ表物ろ国の内に今ろ　全張に面去〜〜

○鯖　ろ表物ろ国の内に今ろ　表張に面去〜〜

○鯨　ろ表ろ表ろ表と折去いろに　面去生ハに不足

○鯛　ろ表ろ表と折去〜〜

○鯉　ろ表ろ表と折去〜〜

○鯖　ろ秋と天竺と行の字　二百去

○鯛　ろ秋と表ろ表と　二百去

○鯛　ろ秋と表ろ表と　二百去

○鯛　ろ秋と表ろ表と

▲鈴ハ五ツ巻ノ大の内ニそなへる

△鈴こそ〻ぐ音
まハ伝ちさ〻〻〻〻〻鈴のもよ云さく友明の内ニ
本をさ〻ぐ大し 同ジ

△鈴舟ハこの伝の五ツ舟ハ鈴と結るゆ

▲凍〻〻さるハ凍ちるこ

▲冷〻〻ハ冬の寒ひても秋より引るこ

▲〻〻くろの落まこ
やけ形の行よ生ル
〻〻ろ〻

▲猿家ハ信州伝馬の五ツ伝ル秋こ 仲紙こ
う和のぐれど

す

○鈴 五ツ巻の鈴ニ五。鈴こそと云。鈴茶五ツ巻。鈴七ツ秋こ鈴ニ面云。鈴鼠猫

○凍 五ツ夏こ 網凍ト五秋の凍こ伝上三ツ折云ひやゝかとゆ〻ホ二ツ云云云ゆ云云ホ面云

○凍 云云云〻〻〻〻〻

▲炭ハ大体二ツ有ル炭
▲炭ニ炭消ホモ炭
▲炭ト墨トノ違ヒ
声ニ唱ル時ハ対ても
ちがへちがへ
▲杉菜 ナヅナ
▲杉苗 ナヘ
▲杉 名字ホの杉
面ニ云ヘ
▲黄根ヲ 雑の
▲黄の鶏 巷の

○相撲 スマヒ 万杉ノ七月ノ面大裏ホ
○測 ハカル 二ツ名所ニ万ノ面ニ出ル石
砂ホ有ル
○篠 スダレ 万篠 作ル篠 玉篠 翠篠 篠ホの内ニ今万仙篠ハ名所ノ
簀の字 篠の字 二ツ有ル。たしかめて
○杉 スギ 万人の杉 万あや杉又ハ杉 杉 杉ホ 杉の内ニ今万
杉ホ紙 杉箸 杉戸ホ 杉ホ 杉物ニ 杉ノ三ツの内。杉の
○菅 スゲ 万植物ノ 雑ノ 刈ハ 黄菅 黄菅 菅 菅ホの内今万
う物ニ 黄菅 黄菅 大臣ホ 又万仙上三ツ
○蔣 スヅ 万蔣 万名 下 配 二ツ有
○杉 スヅ 万杉 杉 杉 下 配ホ二ツ有
杉下の字ホの字二ツ有
○杉 スヅ 万杉 杉 二ツ有 杉ホ

○摺 ○透 ○別 ○筋

○救 ○集 ○加 ○流

○喫 ○進 ○助 ○啼

○雪 ○漆 ○垂 ○位

○迷 ○灘 ○とぶ

○とぐろ、とぐろふ

風をきふ 風ふくること

風吹をきふ 吹やむこと

同字別吟こゝ変

○春日と春日 ○紫と紫紫 ○紀と紀廷 家紀 紀解

○勅命と命 ○弥と弥陀 ○菊と菊 ○代と代物

○園と園白 ○中風と中モ中カモ ○横と水ノ横 ○形と花形

○浪と浪花 ○重と重モ ○子と子拂子 ○義と地義

○蘭と蓋蘭 ○山と山 ○戸と上戸下戸 ○百と百合

○泉と黄泉 ○月と海月 月代 ○母と西王母 ○蝶と月モ

○天下と下タ ○今と今年 今日 ○日陰と夜日

○日とこのゝ日 ○月とこゝゝだやゝゝ ○天智と智 ○天皇と天月

大こゝ歌数多あるゝ〜を以て推こゝ知るべし

句数句去之総歴

○春秋　五句去して三句より五句を作る二句ずつ捨へし
但又句作るくしを点句とせむへしと
○夏冬　四句去して三句を作るくし一句ずつ捨ても不苦
但猶句よい當季とのべしと
○神祇　三句去しして三句を作るくし一句ずつ捨て不苦
但猶句よいかどあらひあへし物句も同し
○述懐　三句去し多くし一句ずつ捨ると二句作るくしもあり
○恋恋恋恋恋恋の句いかどもし一句ずつ捨へし
○人倫　二句去して作るくし一句ずつ捨てしるべし
但人の字い三句去し○人倫の句いかどもずつ捨へ
○旅　三句去して二句しか又句を作るくし一句ずつ捨へしと
但旅句作るくしを手を捨むへしと○旅神祇述句は曼
○居所　三句去して二句も作るくし一句ずつ捨てしるべし
但居所は居所の句かどい二句去ずへし
○植物　三句去し本ト末ト末ト本ト行ト夢ホトトギス物い
二句去し但ホトトギス物ずとも二句しか作るべし
○生類　三句去し魚鳥獣虫同物い三句去ホトトギス物い二句去し
作るくいしかしかしか

[illegible]
山[illegible]
人倫の[illegible]
[illegible]
天象や[illegible]
生[illegible]
[illegible]
月[illegible]
織物の文字[illegible]
[illegible]
[illegible]

用捨ノ寄七ノ

[illegible]
天[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
家[illegible]の秘事[illegible]の業
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

言山氏又乃家物注帳

此乃巻須の
まつかを行
形しへ
不審巻教を
よむと巻
物し

昭和学園
短大
第6404
昭36.3.14